

第27回

国史跡指定30周年記念

三重県明和町

忘れていた日本に逢える

斎王まつり



平成21年

6月6日(土)

斎王市 15時~21時

前夜祭 17時~21時 (雨天の場合は総合体育館)

斎宮歴史博物館

斎王他出演者披露

特別ゲスト/三味線奏者 たなか つとむ

(三重TV ええじゃないか出演)

6月7日(日)

斎王市・アトラクション 10時~15時

禊の儀・斎王群行 12時~15時(雨天中止)

上園芝生ひろば~斎宮歴史博物館

《作品募集》フォトコンテスト

主催:斎王まつり実行委員会

《後援》 明和町、明和町教育委員会、明和町観光協会、斎宮歴史博物館、(財)国史跡斎宮跡保存協会、(財)民族衣裳文化普及協会、国土交通省三重運輸支局
NHK津放送局、三重テレビ放送(株)、三重エフエム放送(株)、松阪ケーブルテレビ・ステーション(株)、近畿日本鉄道株式会社

《問い合わせ》 斎王まつり実行委員会事務局
TEL. 0596-52-0054 FAX 0596-52-7274
<http://saioh.sub.jp>

配役

齋王



鳥井 麻生
(津市)

子供齋王



田所 藍耶
(齋宮小5年生)

女孺



成瀬 彩
(鳥羽市)



金田 伊代
(栃木県大田原市)



江崎 和季
(津市)



池田 朱美
(多気町)



北川 栞
(伊勢市)

舞人



中山 みどり
(伊勢市)



中山 かおる
(伊勢市)



杉谷 祐芽
(松阪市)



伊藤 旬子
(津市)



孟 純
(中国)

女別当



木下 英里
(津市)

内侍



西尾 恵美
(明和町)



勝木 智美
(名張市)



加藤 美紀
(愛知県日進町)



矢田 薫
(四日市市)

舞人



徐 园园
(中国)



逢 淑娜
(中国)



西村 幸英
(津市)



奥田 勲
(四日市市)



近藤 加奈
(名古屋市)

命婦



大市 愛
(津市)

命婦



小田 真麻
(志摩市)



向井 裕子
(熊野市)



新納 優希
(津市)



大谷 廣美
(橿原市)

風流傘



鈴木 直孝
(四日市市)



岡森 義貴
(名張市)



久米 圭一
(桑名市)



辻 泰
(鈴鹿市)

采女



齋藤 治美
(鳥羽市)

女孺



野口 智世
(伊勢市)



伊藤 もえ子
(津市)



山添 真規
(伊勢市)

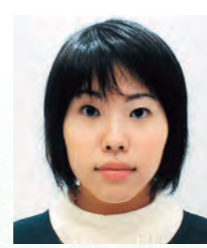


中瀬 千津留
(亀岡市)

陪従



小川 あゆみ
(津市)



稲垣 明香
(春日井市)

女孺



佐藤 友梨
(東京都)



西 美矢子
(松阪市)



守月 真衣
(津市)



中森 千賀
(津市)



矢熊 智美
(御浜町)

斎王まつり二十七回を迎える

斎王まつり実行委員会 広報班

昨年は明和町制五十周年、本年は斎宮跡国史跡指定三十年、斎宮歴史博物館開館二十年の節目のなかに、二十七回目の「斎王まつり」が行われます。ご存じのとおり昭和五十八年地元婦人会有志の「お祀り」がきっかけで実行委員会が設けられ、四半世紀を超えて「まつり」が行われてまいりました。斎王は二十五代を数え、斎王役も少女から成人へ、町内推薦から全国公募となり全国各地から応募をいただいております。前夜祭も行われるようになり、日程も一日から二日へ、内容も斎王群行に加え、禊の儀、発遣の儀、社頭の儀と充実してまいりました。

最近、県内外の斎王に関わりのある各地で同様な行事が行われております。斎王様がお住まいであった地で行います明和町の斎王まつり「忘れていた日本に逢える」をサブテーマに益々充実してまいりたいと思っております。皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

童・童女 出演者 (順不同)



濱口 萌音
別府 将吾
島田かのん



田所 藍耶
富内 海音
澤村 梨乃



宇田 真秀
森 涼花
正木 茜
加藤 ひな



新開 皓太
下村 綾音
山本 実紅



小野 真幸
奥田 侑姫
西口 空



大西 美汐
辻 咲菜
中野 真果



永井 優香
別府 大輔
黒坂 麻由



小川愛里彩
丹羽 愛
北吉 美優



有馬 日菜
前野 智香
池田 明莉



杉谷 佳恵
岩崎 優

6/6(日)

6/5(土)

斎王市
15:00 ~ 21:00

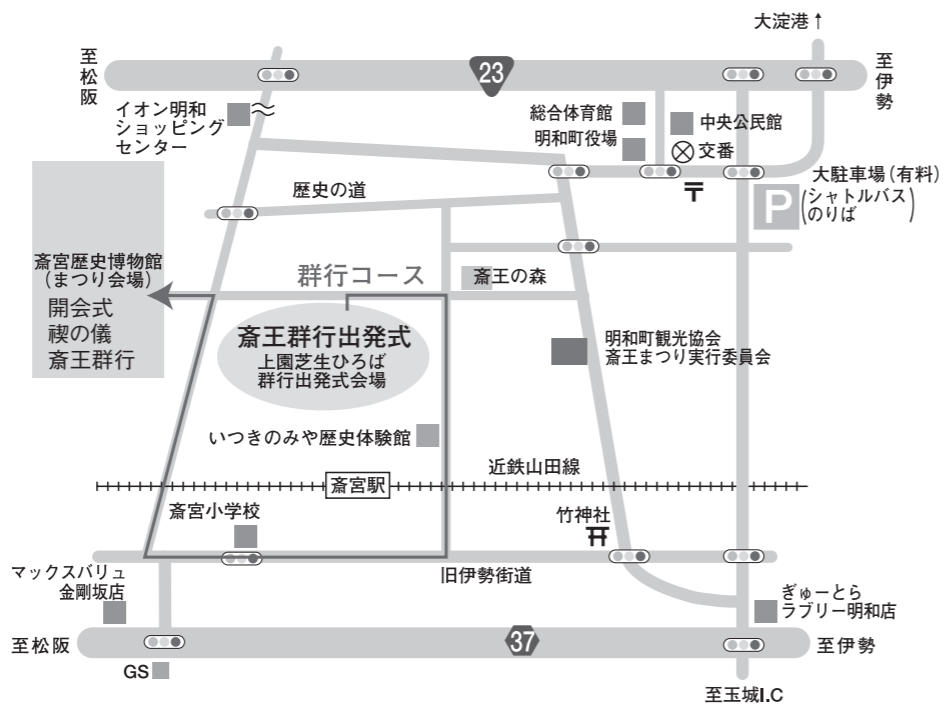
前夜祭
18:00 ~ 21:00

斎王市
アトラクション
10:00 ~ 15:00
雨天の場合中止

斎王群行
13:00 ~ 15:00
雨天中止
上園芝生ひろば(斎宮駅北)
から斎宮歴史博物館まで
斎王群行を再現

もくじ

- 斎王まつり配役..... 2
- 斎王まつり童・童女出演者..... 4
- 斎宮の歴史語り(その3)..... 6
- 斎宮跡の発掘調査..... 8
- 斎宮歴史博物館 館長..... 10
- 斎王まつり実行委員のページ... 12
- 図書の紹介/実行委員会組織体制... 18
- 斎王まつり実行委員会活動..... 19
- 群行衣裳..... 20
- フォトコンテスト..... 22
- 第26回斎王まつりの思い出... 24



特別ゲスト

「三味線 たなかつとむ」

●プロフィール
三重テレビ「ええじゃないか。」喜多八役で活躍し、現在は同番組の続編のテーマソング「え！え？え！じゃないか。」を唄う。この斎王まつりでは、古典民謡から現代曲まで古今東西「にっぽんの音」をテーマに、「津軽じょんから節」やオリジナル曲などをお届けします。
公式サイト www.chanchiki.com



斎王を ひもとく

斎宮の歴史語り（その三）

ふるさとの語り部 山川 充造

古代より交流が続いてきた中国、朝鮮、ペルシャからは、我が国は『倭の国』と呼ばれ、『倭』とも読まれていた。諸説ある中に『東夷』、という蔑称を使われた時もあり、東の方の野蛮な人の住む山ばかりの島『山処』との解釈もあった。確かにそのような時代の有ったことは伝承時代を書いた書物に見受けられる。

後世になってから、縄文時代一万年、弥生時代六百年の経過を振り返る中で、公文書や、祭祀の場には、平城宮遷都の頃になると、先に述べた『倭』の文字も『大和』が多く使われ、対外的には『日本』という文字が使われるようになっていった。然し読み方は『ヤマト』であり、『ニッポン。ニホン』の読み分けと共に、完全に『ニホン』とか『ニッポン』と読まれるようになったのはいつの頃か、未だ全てが曖昧なままの日本である。

古い都跡の一人旅は良いものである。

自分の頭に描いた知識に句読点を打つ楽しみや、何回も書いては消すことが出来ることもスリルの一つと云うべきか。

この倭を中心とした山深い盆地に、この国独特の文化が開いていった。

ふっと遠景に行き来する人影は、朝服を纏った弥生時代に生きた人と重なる神と空想の世界を見たような気がする瞬間でもある。

七〇一年、大宝律令が完成し、近代国家への道程は時代に合った多くの『法』を内包し、それによって国の祭政の全ては厳しく指揮されるようになっていった。

史料を遡れば『天武二年四月、大来皇女十三歳初瀬斎宮に置く』とある。初代斎王の制度による野宮の初めての記録である。

翌年には伊勢斎宮として明日香の宮から発遣の儀が行われ、伊勢神宮と、朝廷と、斎王を結ぶ太い糸で繋がれていった。

斎宮と斎王は同義語であり、近代になるまで斎宮は（いつきのみや）と読まれ、『伊勢物語』などの古典には斎王も（いつきのみやなりけるひと）と記述されている。

『壬申の乱』に勝利した側が、朝明川のとおりで皇祖人・伊勢神宮に望拝し、神との約束祈願をした『神宮遷宮、斎王制度』はこの頃より律令に組み込まれていったものと思われる。然し、史書には、天皇の意図してきた皇位継承の順位が遅々として思う方向に進まず、この事の関連は斎王数代の記録として次の機会に述べることとする。

先頃、私は斎王まつり実行委員会の『荷物』になりながら、弱い足を引きぎり史書に載る初代斎王『大来皇女』の源流の地を探索した。先に述べた初瀬は現在の長谷であり、長谷より明日香への山には至る所に関係する歴史が祀られ、その社の後ろには深山幽谷に続く参道があり、それらの高い石段を喘ぎ、登り下りするだけで自然と頭下がる思いがした。

書き出しの『古代より交流が続いてきた中国、朝鮮、ペルシャ等』世界の古代文明の影響を受けての、日本の古代ロマンの地は幾度訪れても新しい思いを呼び覚ます。

昨年は、何とはなく奈良の旧跡を訪ねて見たく、明日香浄御原の宮から藤原宮に遷都された16年間の花の時代を想像し、藤原宮跡へ回った。千三百年を経たその地の一木一草に命を感じ、資料に目をやれば、幾星霜を経た昔を語ってくれるその宮跡に、小学校時代に覚えた歌カルタの風景が重なる。

万葉集・巻き一に、
『春過ぎて夏来るらし白栲の
衣乾したり天の香具山』 持統天皇

は完成した藤原京を帝の目で読んだ庶民感覚の歌であろう。

懐かしい思いの中で、北東方向に遠く駱駝の背のような二上山を望み、近くには、遺跡に誘われて佇むこの魂を囲むように、大和三山と呼ばれている香具山・畝傍山・耳成山が語りかけてくる思いがする。

処、処に建つ説明版には、この広大な平地が語る一三〇〇年間の歴史が訪問する度に新しいロマンを醒ますに十分な空間である。

山から滴る水は深山の色に染まり、此処も彼処も歴史に載る初代斎王・大来皇女十三歳の籠もった野宮に比定するのには厳しさと神聖さの言葉を超越していた。

『初瀬斎宮に居らしむ。是は先ず身を潔め
稍に神に近づく所なり』日本書紀『天武紀』
にはこのように記され、神の境地との合体を意味する記述であろう。

史書によれば、

『大来内親王薨・天武天皇皇女也』の少ない一行の記録と、十二月二十七日喪は、斎宮遺跡を目指して来町していただく女性にとつて、古代の女性は現代にも共感を呼び、何回かガイド冥利を感じたことがある。

振り返れば、平成五年「斎宮ロマンフェスタ」なる野外音楽劇が斎宮歴史博物館の芝生広場で大々的に行われ、中央からも地方からも沢山の役者が出演した。『語り部』として昼間、群衆の中に埋もれ、当てのない散策をしていた時、若い三人の役者と立ち話をする機会があった。倭姫、大来皇女役の女性二人、盧城部連・武彦役の男性であり、「倭姫のお宮さんはどの方角ですか」「あなたはお父さんに殺されてしまう役ですね」そんな会話が合ったように思い出す。男女を問わず若く美しい三人の一人が『大来斎王』役の『萩原かおり』さんであった。本番の朗々たる歌声は、その役柄と美貌と共に昨日のこのように思い出す。

参考資料 斎宮志 山中智恵子

斎王一覽

斎王の伊勢滞在期間は短くて一年、長い人では三十二年という例があり、年齢は五歳から十五歳の少女に集中しており、最高で群行時三十二歳という斎王もいます。

時代	歴代斎王	在任期間(年)	天皇	西暦	歴史上のできごと
伝説の時代の斎王	豊鍬入姫(よすきいりひめ) 倭姫(やまとひめ) 五百野(いほの) 〔伊和志真〕(いwashima) 稚足姫(わかたらしひめ) 葦角(あしかく) 磐隈(いわくま) 菟道(うじ) 酢香山姫(すかてひめ)	六七三〜六八六	崇神、垂仁、景行、仲哀、雄略、継体	(六七二) (六七四) (六九四) (七〇一) (七〇六) (七〇八) (七二〇) (七二二)	壬申の乱 大来皇女 大和の泊瀬から伊勢に向かう群行の確実な初例(日本書紀) 藤原京に遷都 斎宮司が寮と同格になる 斎宮官制の初見(続日本紀) 同開珠鑄造 平城京に遷都 古事記撰上
奈良	○井上(いのうえ) ○果(あがた) * ○小宅(おやけ) * ○山於(やまのうえ) * ○酒人(さかひと) ○淨庭(きよにわ) * ○朝原(あさはら) ○布勢(ふせ) ○大原(おおはら) ○仁子(にしこ) ○氏子(うじこ) ○宣子(のりこ) * ○久子(ひさこ) ○晏子(やすこ) ○恬子(やすこ) ○識子(さとこ) ○繁子(なごこ) ○元子(もとこ) *	七二一〜七四九 ? ? ? ? 七五八 七二二 ? ? ? 七八二 七九七 八〇六 八〇九 八二二 八三三 八二八 八二七 八五〇 八五九 八七二 八八二 八八四 八八七 八八九	元正、聖武、聖武、孝謙、淳仁、淳和、仁明、文徳、清和、陽成、陽成、光孝、宇多	(七二〇) (七二八) (七五二) (七五九) (七八四) (七八四) (七九四) (八〇五) (八〇六) (八二四) (八三九)	日本書紀撰上 斎宮寮の拡充整備 官人の定員と官位が決まる(類聚三代格) 東大寺大仏開眼供養会 万葉集編纂 長岡京に遷都 平安京に遷都 最澄帰国 比叡山に延暦寺建立 空海帰国 高野山に金剛峰寺建立 多気の斎宮を度会の離宮(小俣町離宮院跡)に移す(類聚国史) 度会の斎宮(離宮院)の官舎百余棟焼失 斎宮を多気に戻す(続日本後紀)
飛鳥	○当香(たき) ○泉(いずみ) ○田形(たかた) 〔多紀〕(たき) 〔円方〕(まどかた) 〔智努〕(ちぬ) * ○久勢(くせ)	六九八 七〇一 七〇六 七〇六 ? ? ? ?	文武、文武、文武、元明、元明、元明、元正	(六九四) (七〇一) (七〇二) (七〇八) (七二〇) (七二二)	
平安	○雅子(まさこ) ○斉子(きよこ) ○徽子(よしこ) ○英子(はなこ) ○悦子(よろこ) ○楽子(やすこ) ○隆子(たかこ) ○規子(のりこ) ○貞子(あたご) ○媞子(やすこ) ○善子(よしこ) ○姁子(あいき) ○守子(もりこ) * ○妍子(よしこ) ○喜子(よしこ) ○亮子(あきこ) ○好子(よしこ) ○休子(のぶこ) ○惇子(あつこ) ○功子(いさこ) ○潔子(きよこ)	九三一〜九三五 九三六 九四六 九四七 九五五 九六八 九六八 九六九 九七五 九八四 九八六 九八六 九八六 九八七 九八七 九八七 九八七 九八七 九八七	醍醐、朱雀、朱雀、村上、村上、村上、冷泉、円融、円融、花山、一条	(八九四) (九〇五) (九二七) (九三三) (九三五頃) (九三八) (九七四)	遣唐使廃止 古今和歌集撰上 斎宮寮の失火(扶桑略記) 延喜式完成 斎宮に関する細則も納められる(延喜式) この頃竹の都と呼ばれる(大和物語) 土佐日記 重明親王女 徽子女王群行(貞信公記)
平安	○当子(まさこ) ○婢子(よしこ) * ○良子(ながこ) ○嘉子(よしこ) ○敬子(たかこ) * ○俊子(としこ) ○淳子(あつこ) ○媞子(やすこ) ○善子(よしこ) ○姁子(あいき) ○守子(もりこ) ○妍子(よしこ) ○喜子(よしこ) ○亮子(あきこ) ○好子(よしこ) ○休子(のぶこ) ○惇子(あつこ) ○功子(いさこ) ○潔子(きよこ)	一〇二二〜一〇六三 一〇一六〜一〇三六 一〇三六〜一〇四五 一〇四六〜一〇五一 一〇五一〜一〇六八 一〇六九〜一〇七二 一〇七三〜一〇七七 一〇七八〜一〇八四 一〇八七〜一〇八七 一〇八八〜一〇八八 一〇八八〜一〇八八 一〇八八〜一〇八八 一〇八八〜一〇八八 一〇八八〜一〇八八 一〇八八〜一〇八八 一〇八八〜一〇八八 一〇八八〜一〇八八 一〇八八〜一〇八八 一〇八八〜一〇八八	三条、後一条、後朱雀、後冷泉、後三条、白河、白河、堀河、鳥羽、崇徳、近衛、近衛、二条、六条、高倉、高倉、後鳥羽	(九九五頃) (一〇〇頃) (一〇一六) (一〇四〇) (一一〇八六) (一一一三) (一一二一三) (一一二五六) (一一五九) (一一六七) (一一七二) (一一八五) (一一九二) (一二二二)	枕草子 源氏物語 道長が摂政となる 摂関政治 斎宮歌合せ(類聚歌合) 斎宮石名取り歌合(金葉集等) 白河上皇の院政始まる 摂政・関白無力化 源頼朝 征夷大将軍 就任 鎌倉幕府開く 承久の乱 朝廷の力衰退
鎌倉	○肅子(すみこ) ○熙子(ひろこ) ○利子(としこ) ○昱子(てるこ) ○曦子(あきこ) ○愷子(やすこ) ○井子(まさこ)	一一九九〜一二二〇 一二二五〜一二二二 一二二六〜一二三三 一二三七〜一二四二 一二四四〜一二四六 一二六二〜一二七二 一二三〇六〜一二三〇八	土御門、順徳、後堀河、四條、後嵯峨、龜山、後二条	(一二七四) (一二八二) (一二三四) (一二三四) (一二三四) (一二三四)	文永の役 元寇 弘安の役 元寇 正中の変 鎌倉幕府 滅亡 建武の中興
南北朝	△権子(よしこ) △祥子(さちこ)	一二三三〇〜一二三三二 一二三三三〜?	後醍醐、後醍醐	(一二三四) (一二三四)	参考 斎宮歴史博物館総合案内



第158次調査 奈良古道



第157次調査 柳原区画最大の柱掘形

齋宮歴史博物館では、史跡齋宮跡に多くの方が訪れ、史跡に親しんで頂けるように、様々なPRやイベントを行っています。発掘調査現場には案内看板や見所を書いたホワイトボードを設置し、調査期間中はいつでも見学できるようにしています。昨年

発掘調査現場の公開と活用

第一六〇次調査は、方格地割の北辺道路と区画道路の交差点部分を行いました。区画道路の東側溝は、何度も掘り直されたため、当初の側溝よりも幅が広がっていましたが、本来は側溝を含めて五〇小尺でつくられていたと考えられます。また、北辺道路の南側溝が、これまで東加座北①区画より西側と東側では、四メートルほどずれていましたが、今回の調査によって、交差点から東側に新たな溝が掘り直されたためであることが判明しました。

メートル)の規格でつくられていたと考えられます。また、柳原区画と御館区画間の区画道路の西側溝も確認しました。これにより、この側溝を含む区画道路幅がおおよそ十五メートル、五〇小尺(一小尺≒約三〇センチメートル)であったことがわかりました。このほか二棟の掘立柱建物も見つかりました。



発掘後

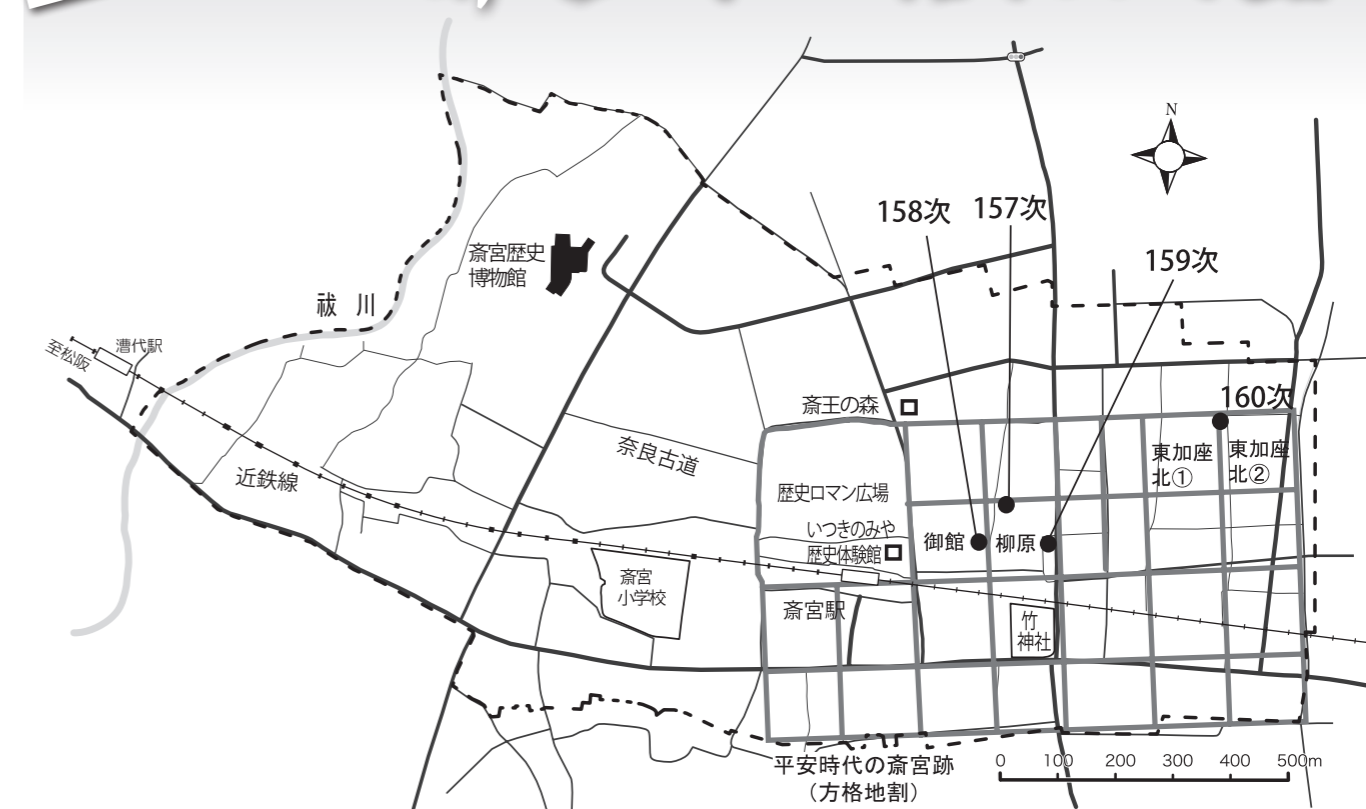
度は夏休みの子ども体験発掘に加え、「発掘調査体験ウィーク」として一般の方々にも発掘体験をして頂きました。その結果、一八〇〇人を超える大勢の方々、発掘調査現場を訪れました。昨年度の調査によって柳原区画の大部分が明らかとなり、建物の変遷や区画の空間利用方法が判明しつつあります。今後も齋宮跡中核部の実態解明を進めるとともに、調査現場の公開等を通して、多くの人に親しまれる史跡になるよう、努力を続けたいと思います。(齋宮歴史博物館 技師 新名強)



発掘体験ウィーク風景



平成20年度の齋宮跡の発掘調査



平成20年度 史跡齋宮跡発掘調査区位置図

齋宮跡の発掘調査は、今年でちょうど四〇年目を迎え、史跡指定から三〇年となる節目の年を迎えました。昨年度の発掘調査では、平安時代の齋宮跡の中核部である柳原区画を中心に、御館区画、東加座北①・②地区で計四地区、およそ三、〇〇〇平方メートルの発掘調査を行いました。

「柳原区画」の調査

「柳原区画」では、第一五七次調査区と第一五九次調査区の二地区を調査しました。

第一五七次調査区は、柳原区画の北西隅にあたる部分です。この調査区からは、一五棟の掘立柱建物が見つかりました。これらの建物は、平安時代前期(九世紀)から末期(一二世紀)にかけての建物と考えられ、長い時期を通じて、建物が何度も建て替えられていました。中には柱掘形(建物の柱を埋めるために掘られた穴)が一メートルを超えるものがあり、「柳原区画」でも最大級の規模を持つ建物があったことが判明しました。また、高級品である越州窯(中国浙江省)産の青磁碗が出土しており、柳原区画が重要であった場所であったことを裏付けています。この他、「志摩式

製塩土器」と呼ばれる塩作りに用いられた土器も出土しました。これは齋宮の中核部に塩が運ばれてきたことを示しており、食用や儀礼などに用いられたものと考えられます。一方、一五九次調査区は、柳原区画の南東部に位置しています。ここからも平安時代前期から末期にかけての建物が一三棟見つかりました。建物の大半は重複しており、何度も建て替えられていた事がうかがえます。今回見つかった建物にも、第一五三次調査で確認された三面庇付建物と軸を描えて建てられたものがあり、建物が計画的に配置されていたものと考えられます。

区画道路の調査

第一五八次調査区は、御館区画の東端中央部分にあたります。ここでは、奈良古道を確認しました。古道は幅が約九メートルあり、二五丈尺(一丈尺≒約三六センチ

国史跡指定三十周年 博物館開館二十周年

斎王まつりによせて

斎宮歴史博物館長 瀧上昭憲

斎王制度は、天武天皇から後醍醐天皇まで、約六六〇年間続きました。そんな斎宮の歴史に数多くの人々がかかわってきたように、「斎王まつり」もこれまで多くの人々によって支えられてきました。その「斎王まつり」の開催が、今年で二十七回目を迎えられることを、まずは心よりお慶び申し上げます。

このまつりは、一九八三年（昭和五十八年）地元婦人会の皆さんが、斎宮跡発掘調査もすでに始まっていたこの地で「斎王様をお祀り」しようということから始まったとお聞きしております。一九九五年（平成七年）以降は、斎王役等も公募となり回を重ねるごとにまつりの規模も大きくなっています。

近年は、町内・県内はもとより、全国各地からもたくさんの方々に見物にお越しいただき、博物館として大変嬉しく思っています。これも明和町商工会・観光協会をはじめ、多くの有志で組織される「斎王まつり実行委員会」が中心となり、大道具・小道具づくりなど、まつりの準備から前夜祭、群行、そしてテントでの出店などを行っていたいただいているおかげです。全て町民のボランティア精神によって支えられ、運営されていることに、深い感銘を覚えます。

野呂知事の年頭のあいさつの中に、地域主権の社会を目指していくためには「新しい時代の公」あるいは「文化力」を展開する中で、質の高い行政改革を推し進めていくことが大切であるとの発言がありました。ちょうど今年には、「美し国おこし・三重」のオープニングの年でもあり、地域の主体性を尊重しながら多様な主体とともに、具体的な取り組みを進めていくこととしている

「斎王まつり」こそまさに、地域の皆さんの創意工夫にあふれた自主的な活動で、地域の活性化、イメージアップなどまちづくりを盛り上げていこうとする、文化力をいかした、持続した地域づくりのさきがけとなる取り組みだと思えます。これまで、地域の人々が斎宮の歴史や文化・アイデンティティを認識し、愛着と誇りを持ち、まつりを通じて世代間・地域間の交流を深め、人と人とのつながりや地域の活性化を引き出すことができるよう進められてきました。地域文化力の向上に対する貢献度の高さは、胸を張ってよいものと感じています。



斎宮歴史博物館

私も、今年の第二十六回斎王まつりに、長奉送使（都から斎宮まで斎王を送り届ける群行の責任者）として参加させていただきました。まつりを通じて、かつて斎宮が置かれていたことを偲



いつきのみや歴史体験館

ぶことができ、我々の先祖たちがどう生きたかを教えられたように思いました。「斎王まつり」が繰り広げられる上園広場や参宮街道は、のどかな田園地帯に昔のたたずまいが残され、一三〇〇年前と同じ景色とはい

かないまでも、山や森、川など自然環境を含めて絶好のロケーションです。そのような史跡を活かしつつ、これからも、「斎王まつり」が斎宮の歴史に脈々と位置づけられ、地域活性化がさらに盛り上がっていくことを心より願っております。

今年、斎宮跡が国史跡に指定されて三十年、斎宮歴史博物館が開館して二十年という節目の年です。国史跡斎宮跡が、地域のみならず日本の貴重な財産であるという価値観をみなさんと共有し、斎宮跡を内外により多く知っていただくことができるよう、「斎王まつり」とともに博物館もさらに充実した活動を展開してまいります。



忘れていた日本に逢える

— 斎王まつり実行委員のページ —

さい姫の斎王関連 史跡巡り



二月、草壁皇子三代の史跡を中心
に実行委員と巡ってきた。

初瀬街道（R一六五）から長谷寺
の参道を上ること約六km、初瀬川の
上流に祀られている天神社へ、ここ
は齋宮山、社伝を見ると、いわゆる
神人分離のおり豊鍬入姫命が天照を
一時祀ったといわれる元伊勢の伝
承、後では大伯皇女が禊ぎを行った
とする倭笠縫邑泊瀬齋宮の旧跡伝承
地で、山の名は齋宮山、伊勢と齋宮
の地名を大和の地でまとめて見ると
は。

桜井市の地名の謂われ「桜の井」
がある、式内稚櫻神社（桜井市谷）
へちよつと寄り道して、昼食は飛鳥
の石舞台古墳の休憩所で摂り、草壁
皇子本墓の東明神古墳と隣接する皇

子の陵墓（岡宮天皇陵）を参拝した。

草壁皇子は諸兄ご承知のうえでの
記述になるが、天智元年（六六二年）
生まれ、父は天武天皇、母は持統天
皇で大伯皇女、大津皇子とは異母兄
姉、六七九年事実上の後継者となり
（吉野の盟約）六八一年に立太子、
六八六年天武が崩御するが、大津皇
子の処刑に配慮し、母が天皇（持統）
となるが、六八九年皇位に就くこと
なく薨去。

歴代天皇に岡宮天皇の名が無いの
は皇子は天皇に就かずして亡くな
り、後に「岡宮御宇天皇」の称号が
贈られたことによる。

早世したが両親・妻（元明）・息
子（文武）・娘（元正）が皇位に就き、
次女の夫長屋王も親王待遇で皇位継



岡宮天皇陵

承権があったとされるなどほとんど
が皇位につき天武系の嫡流として子
孫は奈良時代の政治・文化の担い手
となった。井上内親王は曾孫。

孫には孝謙・称徳（孝謙の重祚）と、
草壁皇子の項にも記したように天武
の嫡流が覗える。

次いで草壁皇子の長子、文武天皇
（珂瑠又は軽皇子）陵、両親（天武・
持統）の陵をお参りし、高松塚古墳
で飛鳥美人と会い齋宮へと帰った。
文武天皇の母は次に天皇となる元
正（阿陪皇女）子は聖武（首皇子）

父草壁、伯父高市と皇位継承者が
薨じたのち、祖母持統の譲位により
持統後見のもと一五歳で即位した。
大宝律令の完成、冠位制から官位
制への改め、元号制の整理が行われ
たのはこの時代である。



齋宮の縁を訪ねて

二月一日、前日の強風をよそに、
穏やかな日和になりました。

取材旅行と云うことで事前に資料
をいただきました、何も知らない私
にとりましては、いにしえとの絆を
探る良い参考となり興味深い一日と
なりました。

紀行文に換え行く先々での感じた
ことを歌にしてみました。

川添ひに縁訪ねる齋宮山

大師書の文字 丹塗りの鳥居

多武峰標識横目に明日香路へ

三輪そうめんの 幟はためく

證高き境内うずめる木の实落つ

木の実木の实の 天神社

明日香路に高くみかんや元気色

銀輪群れて 坂道を行く

（植田 芳子）



東明神



天武天皇・持統陵

初期齋宮の縁を訪ねて

倭笠縫邑の由緒と

齋宮山の天神社を訪ふ

大和の国原より望む、厳肅なる三諸の三輪山一円は美しき山辺の光景で古代倭の神々の鎮まり給う神山であり、東青垣の連峰は溪谷美に優れ、大和日高見の国と称せられて天の神の聖地であったところを倭笠縫邑と言われています。が、今日訪ねる泊瀬の小夫の郷はいにしへの郷愁を誘うロマンの地です。

泊瀬の地を稜線に沿って大和川の源流へ、万葉で知られる泊瀬川は神の河、日の河と呼ばれている、水源をなす秘境の地で古代大和における倭笠縫邑という伝承がありました。

往昔、神浅茅原と称し、笠山より東に龍野、和田の山稜、小夫齋宮山、滝倉山の原始林を隔てて、真平、中岳、貝ヶ平の三山（貝塚があり貝の

化石が出る）と相対し、秋の頃は陽は中岳より昇り、その陽光は雄大となり上之郷の里々と谷々を照らし、大和川一帯の紅葉は絶賛されると、里人は語ってくれた。

貝ヶ岳は大和に於ける俊嶺にして巖の如く、天に聳え、真平山は稍低く頂き平らにして、中岳をはさみ、その山容はさながら伊勢の二見ヶ浦に似ている様であります。又、この地の神の郷なる上之郷は伊勢五十鈴川の上流にある志摩の上之郷と似ている。

大和川の小夫の下流には釜ヶ淵があり、同名称の釜ヶ淵も五十鈴川の上流にあるようで不思議と思える古の繋がりがあります。

小夫郷は往時、倭笠縫邑と称し、幻の宮、泊瀬齋宮の齋王、大来皇女の御祓の伝承地であつて小夫天神社、笠山荒神、滝倉権現を齋奉し古代倭にして上之郷には、笠山、笠神

の笠を称する地名が多く、笠山より化粧川、齋宮山、小夫の笠神に至る地所は多くあります。悠久に神霊が座し、元伊勢発祥の地にふさわしく、遠く二千年の古を想えば感慨無量で齋宮の地名、元伊勢の伝承の地を訪ねたことは有意義な一日であつた。

天神社の社伝には

倭笠縫邑に天照皇大神宮御鎮座は、第十代崇神天皇が神人分離の大変革を起こし皇女豊鍬入姫命をして、皇祖を齋奉し給うた最初の霊席とある。又、崇神天皇の御代に神戸大神宮、天神宮と唱えらるとあり、神戸は上之郷または小夫郷と（日本地理資料）に古には笠縫邑と言へりである。所謂に元伊勢の伝承地であります。

尚、社伝の神楽歌に

天照大神御幸

みずがきの宮よりいでし皇神は

泊瀬の川の水上にます

化粧壺御祓儀式歌

よもすがらかよい給ひしあさち原化粧の壺にて禊ぎたまひし

笠縫邑霧御歌

かさぬいの神の淵より立つ霧はあまてるかみのみちのしるしに

神社名は天神社、古くは天神神社といへりとある。

鎮座地は齋宮山に鎮座する

（桜井市小夫字神前田三二四七）

社殿は

本殿 檜皮葺 流造三間社相殿

中門 檜皮葺唐波風造

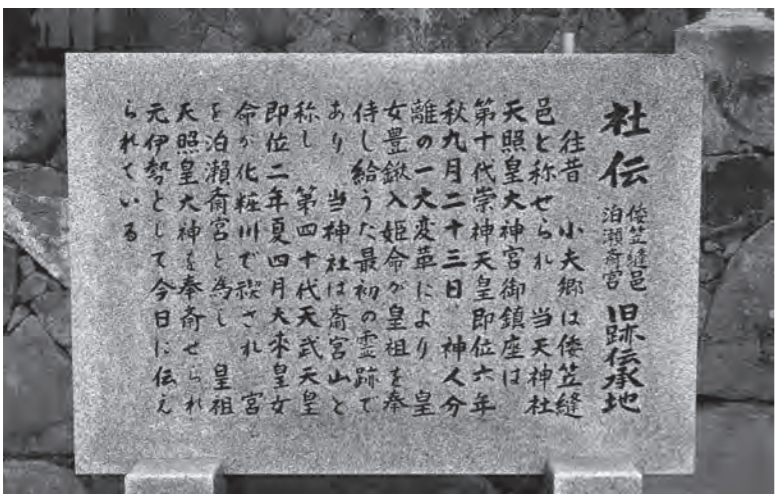
拝殿 瓦葺浜縁回廊造

初期齋宮を訪ね『泊瀬齋宮の伝承

旧跡』

此の地、修理枝地区、小夫郷地区において天武天皇の御代の大来皇女を十三歳の御身で侍らしめた宮を齋宮とし、一年半に及ぶ潔齋を行い、美しい化粧川の化粧壺で禊をしたと伝えられている。

（広報班 中川 裕正）



天神社社伝



齋宮山天神社を訪ねて



天神社

観音信仰が隆盛を極めた平安時代には、初瀬詣で知られた霊場「長谷寺」の山門を右に眺め、バスは都祁へ続くつづら折れの山道を走る。右眼下には帯の様に伸びる初瀬川の清流が所々で急流となって見え隠れする。やがて小高い山に囲まれた小さな集落に到着した。三輪山に続くこの地は、現在桜井市小夫と呼ばれているが周囲の山々の景色は古代倭の神々の宿った神山である。又、その連峰は溪谷美に優れ、往時は倭笠縫邑と言われ天照大神を祀っていたと言われる旧跡伝承地で有る。

なだらかに続く石段を一段一段登り詰めた所に齋宮山天神社が在った。御祭神は天照大神で有る。実行委員会代表を先頭に、参加した各々は第二十七回「齋王まつり」の成功を祈る。

かつては、この倭笠縫邑に祀られていた天照大神の御神体は倭姫命によつて、ここ笠縫邑から各地を巡行され伊勢に祀られたので有る。

皇位継承をめぐる争いから生じたとも言われている古代には珍しいと言われた大規模な内乱、壬申の乱は

大友皇子の自刃により大海人皇子の勝利に終わった。各地を転々とされた大海人皇子は、近江からの道すがら甘樫の丘から大和の国を一望された時「大和は、国のまほろば、この地こそ吾が治める国なり」と仰せられ大海人皇子は天武天皇として皇位に就かれた。そして、壬申の乱で戦勝を導いてくれた伊勢の天照大神の神恩は絶大で有ると思われ、永らく途絶えていた齋王制度を復活される事になった。そして、卜定ぼくじょうにより選ばれたのが大来皇女で有る。最愛の弟宮、大津皇子と別れ飛鳥都を後にされた大来皇女は伊勢齋王となる迄の潔斎の生活を送る仮宮として、ここ初瀬の宮で一年半の月日を過ごされた。そして初瀬を後に伊勢へ下向されたのは大来皇女十四才の初冬で有ったと言う。

(事務局 野畑 久子)

すべては「祈り」から始まる。

大来皇女が禊をしたという齋宮山天神社は、奈良県桜井市大字小夫に鎮座し、長谷寺から車で三十分程の本当に、奥深い山里にある。ここは、古代大和における倭笠縫邑であるという伝承の地であり、元伊勢の伝承地である。

また、初瀬齋宮の旧跡、大来皇女化粧川御禊の旧跡であると日本書記に記されているという。

天神社は厳かでありながら、心洗われるような佇まいを漂わせている。

齋宮山とは私達の町、三重県多気郡明和町齋宮と同じ呼び名で、強く縁を感じる。天武天皇(大海人皇子)が、壬申の乱の際、朝明郡迹太川の辺りで、天照大神を遙拝し戦勝祈願。見事勝利した場所も三重県四日市市大矢知町齋宮という。

勝利後、天武天皇は齋王制度を成立させる。文献上記録に残る初代齋

王、大来皇女は天武天皇の実の娘である。迹太川は朝明川と考えられている。

齋宮や齋王に縁のある市町村が集いサミットやシンポジウムなど出来たらいいなと思いつつながら、桜井市の晴れた青空を見上げる。姉妹都市の提携もい々と心弾ませる。都から五泊六日をかけて齋王群行した頓宮所在地市町村にも呼びかけ、皆の声が高まれば不可能ではない。古から御縁のある地なのだから。齋宮ネットワークをつくりたい。

「願い」は思い続けなければ叶わない。

今、私達が「齋王まつり」という歴史の時間を歩んでいるように。賛同者は是非・私宛、御連絡ください。

様々な形で連携をとれば、何事もプラスに働き、お互いの伝統文化

普及活動にも、広がりを与えてくれると信じます。

「はせ」は、桜井市初瀬や初瀬街道の「初瀬」、長谷寺の「長谷」、泊瀬川や泊瀬齋宮の「泊瀬」と様々な書き方がある。

私は泊瀬川や泊瀬齋宮に心惹かれた。

「聖」のイメージが強く感じられるからだ。「言霊」とでもいうのだろうか。

清浄な姫様の禊と祈りが山奥の空気と川の流れの中に確り染み入っているように思われる。

純白の衣装に身を包んだ大来皇女が、ごつごつした岩肌であるが透き通った川の流れの泊瀬川の畔に、佇んでいる姿が目に見えようである。

大来皇女は父上である天武天皇の命令で神の御杖代となり政権抗争の渦巻く中で、結果的に齋王制度を確立させる方向へと向かった。

大来皇女の弟である大津皇子の最後の地、磐余・稚桜神社も訪ねた。磐余の池跡を見下ろす高台にある。

天武天皇の妻である持統天皇は夫の死後、実子の草壁を即位させるため二十四歳の天津に死を命じたという。天津の死後、半狂乱になった妃(山辺皇女)が池に飛び込んだという。死の直前、天津は大来齋王を齋宮の地に訪ねたとされている。齋王を解任後に大来皇女も、この高台に佇んだにちがいない。

国宝・高松塚古墳も見学した。高松塚古墳埋葬者は諸説あるが天武天皇の皇子説に注目し壁画を眺める。

描かれた煌びやかな飛鳥時代の女性衣装は身分によつて色も形も決められていたという。壁画の女性は、高貴な身分なのだろう。激動の時代を毅然と生きた力強さが伝わってくる。壁画を眺めながら鶴野讚良(持統天皇)や大来皇女のことを強く思った。色褪せない命の迸りを感じるのである。

衣装は、男女ともに、その時代を映す一つの指針ともなっている。

昼食には紫色の古代米を戴き、訪れた場所に、齋宮との御縁を思う研修旅行であった。

(八田 明美)

選考会



図書館の紹介

私達の「齋宮」について
より多くのことを知っていただくために
「地元」で読める齋宮関係図書のご紹介！

凡例
◎ふるさと会館(図書館)で貸出可 ○ふるさと会館(図書館)で閲覧可
☆いつきのみや歴史体験館・博物館ミュージアムショップで販売
◇齋宮歴史博物館図書ホールで閲覧可

「齋宮」の入門書として

谷口布有緒文 里中満智子画「齋王ロマン 都わすれの詩」明和町◎☆
中野イツ著「齋宮物語」明和町◎☆
山川修司著「語り部の竹の齋王語り」近代文芸社◎☆◇
榎村寛之著「伊勢齋宮と齋王」塙書房☆

郷土の歴史として「齋宮」を知りたい方に

奥井宏忠著「別れの御櫛―齋の宮と齋宮寮」光書房◎◇
明和町教育委員会編「郷土史に見る齋王」◎◇
三重の文化財と自然を守る会編「伊勢齋王宮の歴史と保存」◎◇
「同Ⅱ」◇

齋王二行の旅した「群行」の道を歩いてみたい方に

田畑美穂著「齋王のみち―伊勢齋宮の文化史―」中日新聞本社◎◇
村井康彦監修「齋王の道」向陽書房◎☆◇

「齋王」を小説で読んでみたい方に

内田康夫著「齋王の葬列」角川書店◎◇
池田美由喜著「鷲草―大津皇子とその姉と―」新風舎◇
郡俊子著「倭姫宮の御巡行」勢陽文芸◎◇
々々
「伊勢齋王の恋」近代文芸社◎◇
々々
「哀しみの伊勢大来齋王」近代文芸社◎◇

「齋宮」や「齋王」について考えてみたい方に

津田由伎子著「齋王」学生社◎◇
山中智恵子著「齋宮女御御子女王―歌と生涯―」大和書房◎◇
々々
「齋宮志」大和書房◎◇
々々
「続齋宮志」砂子屋書房◎◇
々々
「齋宮筋記」砂子屋書房◎◇
所京子著「齋王和歌文学の史的探究」国書刊行会◇
々々
「齋王の歴史と文学」国書刊行会◇
榎村寛之著「律令天皇制祭祀の研究」塙書房◇
中川ただもと著「齋宮和歌の解釈と鑑賞」紫明の会☆
服藤早苗著「歴史のなかの皇女たち」小学館☆

第26回(平成20年度)齋王まつり実行委員会活動

1月	7日(月) 予算会議(本部・財務班長)	6月	1日(日) ステージ作り
	9日(水) 本部会議		4日(水) 衣裳出し
	10日(木) 梅まつり会議(代表)		6日(金) ステージ作り
	12日(土) 監査		7日(土) 前夜祭
	19日(土) 役員会		8日(日) 齋王まつり(稷の儀・齋王群行)
	23日(水) さわやか学園ボランティア打合せ		11日(水) 衣裳かたつけ
	27日(日) 総会		12日(木) 衣裳かたつけ
2月	4日(月) 本部会議		18日(水) 役員会(反省会)
	5日(火) 源氏物語1000年紀打合せ		29日(日) 会議室・倉庫かたつけ
	7日(木) 群行班会議	7月	18日(金) フォトコンテスト応募メ切り
	13日(水) 会場班・前夜祭班会議		24日(木) フォトコンテスト一次審査会
	18日(月) 役員会		30日(水) 役員会(フォトコンテスト入賞入選作品審査会)(応募者86名 応募作品202点)
	21日(木) 出演者応募締め切り	8月	10日(日) フォトコンテスト入賞者表彰式(いつきのみや休憩所)
	24日(日) 童・童女出演者説明会(中央公民館)		21日(木) 本部会議
	28日(木) 広報班会議		29日(金) 役員会
3月	2日(日) 梅まつり(齋王出演)	9月	5日(金) 臨時総会
	3日(月) 役員会		秋の交通安全キャンペーン「とまと-す」打合せ
	9日(日) 齋王選考会(中央公民館)群行班・前夜祭班現地視察		6日(土) 町制50周年記念式典(中央公民館)
	28日(金) 外功出演者応募締め切り		14日(日) いつきのみや「観月会」協力
	31日(月) 役員会		14日~15日 有志親睦研修旅行
4月	6日(日) フラクション・群行班作業		23日(火) 秋の交通安全キャンペーン「とまと-す」協力(ジャスコ明和店内)
	10日(木) 本部会議		26日(金) 本部会議
	11日(金) フラクション出演者会議	10月	7日(火) 本部・広報会議(ポスターについて)
	15日(火) 会場班会議・県民局来所		17日(金) 役員会
	17日(木) 齋王市出店者会議		20日(月) 千早衣裳出し
	19日(土) 総務班会議		23日(木) 町制50周年 金とく「出前コンサート」収録協力(齋王安田・田端)
	22日(火) 観光協会総会		24日(金) 衣裳他引取り
	23日(水) 役員会・下御糸自治会長会議出席		27日(月) 古道まつり出演打合せ
	25日(金) 全体会議		古道まつり衣裳出し
	26日(土) 自治会代表者会議出席	11月	4日(火) 町広報へ(出演者募集要項掲載依頼)
	27日(日) 総務班会議		7日(金) 古道まつり出演協力
	29日(火) 群行班会場作り		9日(日) 古道まつり衣裳かたつけ
5月	3日(土) 大淀地区自治会長会議出席		11日(火) 古道まつり衣裳かたつけ
	4日(日) ステージ作り		20日(木) いつきのみや「浪漫まつり」衣裳出し
	5日(月) 衣裳貸出し	12月	2日(火) いつきのみや「浪漫まつり」衣裳かたつけ
	7日(水) 近鉄リテール弁当打合せ		4日(木) 会場班会議
	8日(木) 松阪商業高校ギター部顧問(福田先生)打合せ(代表)・本部会議		10日(水) 役員会
	10日(土) 上御糸地区自治会長会議出席		12日(金) 記者クラブ(松阪・伊勢)他出演者募集要項掲載依頼
	11日(日) 群行出演者説明会・齋宮自治会長会議出席		梅まつり会議
	14日(水) 知事表敬訪問		
	16日(金) アトラクション出演者会議		
	21日(水) 齋王市出店者最終会議		
	25日(日) 町内のぼり立て		
	30日(金) 最終全体会議		

第27回(平成21年度)齋王まつり実行委員会組織体制

役職名	代表 森下 清 副代表 笛川 浩 副代表 田中 貢 副代表 岩佐康則 事務局 野畑久子						
本部	久世 晃 浅尾美代子						
会計監事	名譽会長(町長)中井幸充 西場信行 大野秀郎 瀧上昭憲 大和谷正 辻 正信 辻 丈昭 橋本久雄 山川充造						
顧問	辻 孝雄 朝倉惟夫 北村純一 東谷泰明(齋王市担当) 森島啓之						
相談役	辻 孝雄 朝倉惟夫 北村純一 東谷泰明(齋王市担当) 森島啓之						
小委員会名	任務分担の内容		構成する委員の氏名				
総務班	総務の実施 グッズ販売・スタンプラリー等	◎竹内克巳	○土井祐治 原野正之	森島啓之 西岡吉一	朝倉惟夫 西岡信行	石田豊喜 堀木茂生	中瀬正実 10
財務班	財務の実施	◎西村直克	大西俊次郎	辻 孝雄			3
会場班	着付会場内の管理 出演者の移動 記念写真	◎森田 均	○北川和樹 奥山憲生	○八田明美	澤 恒一	潮谷伯子 田端幸男	7
着付班	着付け準備と後片付け	◎西川道子	○新田一子 夏井ちはる 植田芳子	田中政子 西川美代子 榎本英子	今西明美 西宮幸代 橋本伸江	清水清子 服部益子 尾上昌子	新谷千恵子 北川佐代子 安井澄代 16
まつり実施班	前夜祭の実施 稷の儀の実施 出発式の実施 群行の実施 社頭の儀の実施 アトラクションの実施	◎笛川 浩 ◎岩佐康則	○伊串金市 ○森津津子 小林邦久 中西修一 八田秀穂 山内 理	○北岡 泰 石田藤生 佐々木久夫 中村利彦 早川潤一 辻 満寿美	○北村哲也 田中真司 西村 帝 間宮一彦	○岡岡武夫 北山房夫 田端利也 中村好富 森西捨巳	○西山浩一 小林順一 永島せい子 長谷川新 山本佐七 29
広報班	ポスター・パンフレット原案作成 広報・宣伝事業計画	◎橋本久雄	○中川裕正	西山清美	清水恵子		4

敬称略・順不同(◎は班長 ○は副班長) 平成21年2月28日現在

群行衣裳



長奉送使【ちょうぶそうし】



監送使ともいう。齋王一行を伊勢まで送り届ける群行の最高責任者。沿道における警察権が与えられており、任を終えると直ちに帰京しました。



検非違使【けびいし】

平安時代から室町時代にかけて京中の警察を担当した職。元来、平安京の治安維持は京職や衛府の任であったが、特定の官人に京中の警察を担当させることがあり、それが検非違使となり、やがて衛府や京職・弾正台などの権限を吸収し、王朝国家有数の警察機関となったのである。

看督長【かどのおさ】

検非違使庁の下級職員で、身分は火長。弘仁式制では左右それぞれにつき二人と定めら

齋王【さいおう】

天皇の即位ごとに、未婚の内親王（天皇の娘）あるいは女王（天皇の兄弟の娘など）の中から占いで選ばれ、天皇の讓位や崩御、あるいは肉親の不幸などにより解任されて、都に帰る決まりになっていました。伊勢神宮の祭りには、六月・十二月の月次祭と九月の神嘗祭に関わるのみで、ふだんは齋宮の中で都と同様の生活を送っていたものと考えられています。

古代から中世にかけての文学作品に登場する齋王も多く、「源氏物語」「伊勢物語」など、多くの文献に残されています。

十二単【じゅうにひとえ】

十二単とは近世になってからの呼び名で、正しくは女房装束、または裳唐衣といえます。単衣の上に袿を重ね、打衣、表着の上にはベストのような唐衣をはおり、腰には前部のないプリーツスカートのような裳をつけます。貴族の女性の晴の衣裳（正装）です。

髪は垂髪、作り眉。上衣は、上から順に唐衣、表着、打衣、袿、単となっています。唐衣は袿、袷合わせがなく、上からはおります。表着は上の御衣とも呼ばれる垂領広袖の袷仕立てです。打衣は碇で打って光沢を出したところからこの名があります。形は表衣と同じで紋様はありません。袿は、內衣の意味で、垂領、広袖の袷仕立てで地紋があり、数枚重ねて用います。単は袿と同形ですが、裾、丈ともに長く、単仕立てで裾はひねり仕立てになっています。下衣

13番 日陰の糸 又は玉かずら

1. 垂髪
 2. 唐衣
 3. 表着
 4. 打衣
 5. 衣（袿）
（枚数を重ねている）
 6. 単
 7. 長袴
 8. 裳（全体）
 9. 裳の小腰
 10. 裳の引腰
 11. 櫛扇（柏扇）
 12. 帖紙
 13. 日陰の糸（玉かずら）
- ※齋王が付けていたかどうかは定かではありません。



には袴と裳をつけます。袴は緋の長袴（若年未婚は濃色）、裳は背にあてて結び、後に長く垂らして引きます。



れ、貞観・延喜式制に継承されているが、その後次第に増員され、長元八年（二〇三五）

の「看督長見不注進状」（「平遣」五二九〜三七）では左右合わせて十五人を数える。獄直や犯罪の捜査・追捕等を任務とする。尉を中心として編制される警察部隊の一員として出動することがあるが、単独ないし少数の従者を率い、事に従うことが多い。しばしば行き過ぎた捜査や追捕を行い、京民から頼りにされる一方で、恐れられもした。その武力は悪鬼魔神を摺伏するという信仰を生み、「徒然草」二〇三には主上御悩の時、五条の天神に看督長の鞞をかけることが見え、「神道名目類聚抄」には守門の神を看督長と称したとある。

1. 冠
2. 綾
3. 太刀



1
2
3

隨身【ずいしん】

隨身とは、貴族が外出する際に警護にあたった近衛府の官人を指します。それには高い教養と優美な美貌が求められたと云います。

駕輿丁【かちよう】



齋王の乗る輿（葱華輦）を担ぐ人です。

内侍または命婦【ないしまたはみょうぶ】



齋宮で働く女官たちの最高責任者として、乳母や女孺の上にいる立場にありました。

女別当【にょべつとう】



内侍や宣旨が、齋王の住むエリアで公的性質をもつ仕事をこなす女官であるのに対して、乳母のように、齋王のプライベートな「宮家」としての用向きを担当していたのではなからず、いかと考えられますが、詳しいことはわかりません。

乳母【めのと】

母親に代わって養育を受け持つ女性で、齋宮には、齋王個人の「家」に仕える存在として、二名ないし三名が務めるようになっていました。

女孺【にょじゆ】



「めのわらわ」ともいう女官で、一等から三等に分かれており、それぞれに課せられた実務を担当していました。

采女【うねめ】



都では、地方の郡司の娘から選ばれ、天皇の御前などに奉仕していました。しかし、齋宮に采女がいたかどうかについてはよくわかっていません。

童・童女【わらわ・わらわめ】

都の官人が、家族で齋宮に赴任したということも考えられますが、その子供達が齋宮内に住んでいたという可能性はあります。しかし、群行の一員として加わっていたということにはなかつたようです。



齋王フォトコンテスト

齋王賞



「儀式終えて」 鈴鹿市 世古 満美

町長賞



「褌」 松阪市 三瀬 誠

明和町教育長賞



「平安の恋」 松阪市 堀木 光一

明和町議会議長賞



「褌の儀」 伊勢市 井村 義次

齋宮歴史博物館長賞



「哀悼」 松阪市 刀根 明久

特別賞



「幽玄」 津市 西浦 正夫

特別賞



「旅立ち」 明和町 間宮 修

特別賞



「齋王の名と」 松阪市 後藤 ミユキ

特別賞

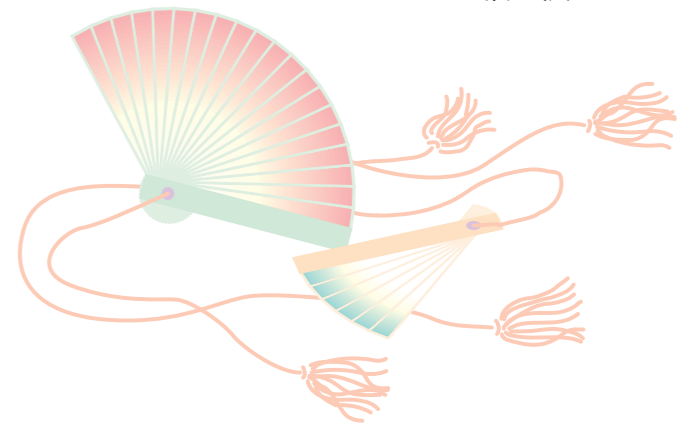


「微笑婉然」 明和町 岡田 清志

フォトコンテスト

- 応募方法
 - ・ 応募には郵送と齋王まつり事務所受付の2通りがあります。
 - ・ 応募作品は応募者本人が撮影したもので1人3点以内、未発表の作品に限ります。
 - ・ カラー、白黒作品でサイズは四ツ切のみ
 - ・ 応募票の各項目に楷書で記入し、題名、お名前には必ずふりがなをつけてください。
 - ・ 応募作品の裏面に応募票を貼付してください。(コピーも可)
- 締切
 - ・ 平成22年7月16日(金)消印有効
- 郵送方法について
 - ・ 郵送中の事故、破損については責任を負いかねます。
- 選考方法・入賞・入選
 - ・ 作品は齋王まつり実行委員会にて選考いたします。
 - ・ 入賞は、5賞(齋王賞他)、入選20点程度とします。
 - ・ 発表は、8月5日前後、新聞紙上にて発表します。
 - ・ 入賞・入選作品については、改めてネガをお借りすることがあります。
 - ・ パンフレットやポスター、ホームページなどへの使用权は主催者に帰属します。
- 作品の返却
 - ・ 応募作品はご返却いたしません。
- 応募先
 - ・ 齋王まつり実行委員会「フォトコンテスト」係

◆ 応募・問い合わせ先
 〒515-1032
 三重県多気郡明和町齋宮2811番地
 齋王まつり実行委員会事務局
 電話 0559615522 / 0559617025 / 0559617075 / 0559617044
 FAX 0559615522 / 0559617075 / 0559617044





第25代齋王役
鳥井 麻生

齋王役を務めて

前夜祭の興奮も冷めぬまま、期待と緊張でドキドキしながら迎えた齋王まつりの日は、とてもさわやかな快晴に恵まれました。実行委員会の方々に、楽しみにして来ていただいている皆様や、参加者の願いが通じたのでしょうか。

私は十二単が着たくて齋王まつりに参加を申し込んだので、憧れの十二単に袖を通した時の感動は今でもはつきり覚えてます。禊の儀を目前に不安いっぱい私を、「大丈夫」と送り出してくれた実行委員の方々、会場の皆さまの笑顔や声援にとても励まされました。

齋王群行では、手を振って下さる方、「齋王さん！」とあたたかい声をかけてくださる方に囲まれ、嬉しくて緊張も吹っ飛んで心からおまつりを楽しみました。

明和町という、歴史にも温かい人々にも恵まれた地で、「生忘れられない経験をさせてもらって、素敵な方々の笑顔に出会えた」とは、私の大事な思い出です。

今年も、来年も、その先もさらに素敵な「齋王まつり」に盛り上がっていくことを心から祈っています。



子ども齋王
田所 藍耶

子ども齋王を務めて

齋王まつりで一番ドキドキして、嬉しかったことは、開会せんげんをしたことです。とてもきんちようしましたが、うまく言えてホッとしました。

子ども齋王役は、取材やインタビューがあつてすごくびびりましたが、いい思い出になりました。

子ども齋王のあたりクジは、今でも大切にとっておいております。



葱華輦復元模型(齋宮歴史博物館蔵)

語り継ぐ いにしえのロマン

齋王まつり実行委員会 代表 森下 清

齋王制度は、飛鳥時代(六百七十三年)天武天皇が伊勢神宮に「壬申の乱」の戦勝祈願をして勝つことができたことに感謝して、天皇家の御杖代として長女の大来皇女をここに「齋宮」に遣わし、それから約六百六十年間続いた制度でした。都から五泊六日をかけ、齋王二行は「齋宮」まで群行してきたのです。そして、五十数代の齋王やこの地に関わった人々を偲び、「齋王まつり」は始まりました。まつりの群行は、一番華やかだった平安時代の群行を再現したものです。

野花菖蒲が咲く初夏、齋王まつりの季節がやってきます。今年も、前夜祭で夜の禊を行います。

齋王まつりも「語り継ぐ いにしえのロマン」をタイトルに未来に向かう新しい群行の出発にしたいと思います。

全国からたくさんの人々がここに「齋宮」に集い、ふれあえるすばらしいまつりになればと願っています。



主催 / 齋王まつり実行委員会

後援◎明和町、明和町教育委員会、国土交通省三重運輸支局、齋宮歴史博物館、(財)国史跡齋宮跡保存協会、(財)民族衣裳文化普及協会、明和町観光協会、近畿日本鉄道株式会社、NHK津放送局、三重テレビ放送(株)、三重エフエム放送(株)、松阪ケーブルテレビ・ステーション(株)

問い合わせ◎齋王まつり実行委員会事務局 TEL0596-52-0054 FAX0596-52-7274